

「卒業展 2015」開催

1月15日(金)、環境情報学部メディアコミュニケーション専攻の「卒業展 2015」が開催された。これは、同専攻4年生がそれぞれのセミナーで学び、経験し、培ってきたものの集大成である卒業制作や卒業研究を発表する場で、大学生活を締めくくる大きな催しとなっている。今年も、ドキュメンタリーやドラマなどの映像作品をはじめ、プロジェクションマッピングのためのマルチチャンネルによる楽曲制作、Time Laps 作品、3D モデリングなど、個性豊かで見応えのある作品や研究が揃った。また、この「卒業展 2015」そのものが3年生の授業「イベント制作演習」の一環として学内のマルチメディアスタジオを会場に制作されている。イベントの進行からプログラム構成、広報、さらに会場の設営、様々な機器の操作など、4年生の最後の舞台のために3年生は数週間を費やして準備し本番に臨んだ。3年生が整えた舞台上で堂々と自分の作品や研究を発表する4年生。彼らの自信に満ちた表情と姿に大きな成長を感じた催しとなった。



就職活動本番直前、就職セミナー実施

2月4日(木)から5日(金)にかけ、本学では、3年生を対象とした模擬集団面接を開催した。キャリアサポート委員長の鬼頭浩文教授(総合政策学部)による就職活動本番に向けてのガイダンスや、企業へ提出する封筒の宛書き練習、集団面接対策 DVD 視聴の後、履歴書作成、模擬集団面接などを実施。また、6~7人のグループに分かれ、NPO 法人人材育成センターの講師の方々にも模擬面接をしていただいた。各日3時間余りの講習会、3月から本格的に始まる就職活動に向けて、皆真剣に取り組んでいた。また、2月19日(金)には、就職活動研修会を開催し、就職希望の3年生が参加した。本学独自のプログラムで、午前には就職活動マナー演習、グループディスカッション演習、午後は業界研究セミナーと、充実した内容の研修会となった。参加学生は終日真剣な表情で、就職活動に向け、気を引き締めていた。




国際協力海外研修(タイ研修)を実施

3月3日(木)から10日(木)の間、国際協力海外研修(タイ研修)を実施した。本学の全学共通教育科目である「青年海外協力研修」は、青年海外協力隊、NGO、国際ボランティアなど、日本が行う発展途上国での国際協力活動を学ぶことを目的としている。今回は、環境情報学部3名(豊田美波さん、菅井愛美さん、谷沙羅さん)が参加した。研修では、タイ北部チェンライで、タイ山地民の教育支援・農業支援を行なう「暁の家」の活動内容を知るとともに、ドイ・ンガム村にホームステイをさせていただきコーヒー畑を見学するなど、村の実際の生活を体験することができた。今回の参加学生が環境問題に関心をもっていることから、山の環境保全に取り組むパーッキヤ村、ホイヒンラートナイ村を訪問し、村長さんや環境保全のリーダーにインタビューを行った。研修の最後には、チェンマイの「アーサー・パッターナー・デック財団」が運営するストリートチルドレンの青少年の作品を展示販売する店舗も訪問した。このように、タイの現状や環境問題についてじっくり考えることができたのは、参加学生にとって貴重な経験となった。



これまでの Pick Up Topics は、ホームページでご覧いただけます。
<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/examinee/topic.html>

 文部科学省 **地(知)の拠点** Pick Up Topics には、COC 事業における記事が含まれています。

学校法人 暁学園 四日市大学 
【発行】入試広報室
〒512-8512 三重県四日市市萱生町 1200
TEL:059-365-6711 FAX:059-325-7218
<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/>
<http://smile.yokkaichi-u.ac.jp/> (受験生サイト)

P.1・電子顕微鏡と実体顕微鏡を新たに導入
・四日市大学の学生が四日市市消防団に入団

P.2・おもてなし経営の活動
・第1回地域連携フォーラムの開催
・「伊勢湾流域圏の再生シンポジウム」で千葉教授が発表

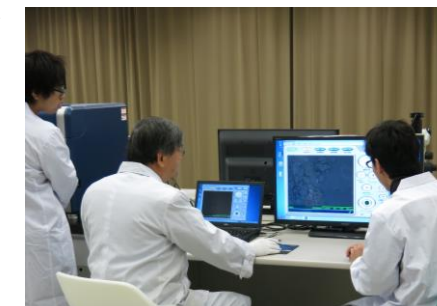
P.3・ドローンの研究活動が朝日新聞で紹介
・第5回「ごみと水を考える集い」で記念講演
・下水処理施設を見学

P.4・「卒業展 2015」開催
・就職活動本番直前、就職セミナー実施
・国際協力海外研修(タイ研修)を実施

電子顕微鏡と実体顕微鏡を新たに導入

3月7日(月)、四日市大学にて新たに導入された電子顕微鏡を学内教職員に説明するお披露目会が行われた。これは平成27年度文部科学省私立学校施設整備費補助金を受けて整備されたもので、地域貢献を目的とする用途に使用する。これを機に旧8201教室を改修した「第2実験実習室」に設置することとなった。お披露目会は、教職員、学生など多くの人が参加。

この日は、キャンパスに咲く椿の花粉や、キクイムシ、ダニなどを観察した。参加者は交代で顕微鏡をのぞきこみ、スクリーンに映った画像を確認して精緻な画像を堪能。顕微鏡の説明は、田中正明教授(環境情報学部)と牧田直子准教授(同学部)が担当した。両教員は、生物学研究所所属の研究員でもある。電子顕微鏡は、一般的に見られる光学顕微鏡とは異なるしくみで観察するため、同じ倍率でもまったく見え方が違うものであるが、知識としては知っていても「百聞は一見に如かず」とはこのことで、実際に観察した参加者からは「これは面白い」と声が上がった。田中教授からは「大きく見えることだけが電子顕微鏡の良さではない。生物に限らず、金属の表面等、精緻に見えることで品質確認できるなどの使い方もある。ぜひ、色々な方に広く使用してほしい」と発言があった。今後は、環境情報学部と本学生物学研究所とが強力に連携し、地域の高校生達の理科教育支援や、理科教育者など大人も含めた生涯教育にも活用していく予定だ。



四日市大学の学生が四日市市消防団に入団

1月17日(日)、四日市市消防団に四日市大学と四日市看護医療大学から10名の学生機能別団員が入団し、市防災教育センターで任命辞令交付式が行われた。任務を防災に限定した「機能別団員」であり、普段は防災訓練や防災啓発イベントなどで活動し、大規模災害時には避難所や災害ボランティアセンターの運営にあたる。

機能別団員は、2010年度から四日市市消防に導入され、水防対応や昼間災害対応、広報、訓練指導の四班に45人が所属している。今回入団した学生は、四日市大学の鬼頭浩文教授(総合政策学部)が中心となった「四日市東日本大震災支援の会」のメンバーで、災害ボランティアや災害支援の経験者であり、うち8名は防災士の資格を取得していることから、訓練指導班を担当する。

3月下旬には、救命講習の指導員になるための研修を受け、4月から本格的に活動を開始する。団員の中には、東日本大震災で被災体験を持つ宮城県出身の四日市大学の学生が2名含まれている。震災から5年が経ち、被災地の中には集団移転が進んでいる地域も出てきたが、まだ移転先の造成工事が始まったばかりというケースも目立つ。団員は、東北の復興に寄り添う支援活動も続けながら、三重の地域防災に貢献しようとしている。



おもてなし経営の活動

四日市大学では、「産学連携による伊勢志摩『おもてなし経営』のための人材育成事業」という名称で“サービス経営に携わる人材を育成する教育プログラム”を開発している。これは、2015年度に経済産業省の「サービス経営人材育成事業」に採択されたものだ。その一環として、学生が大学を出て地域に足をはこび、そこに住み働く人々、企業、歴史、文化を取材(インタビューや撮影)し映像化するという「情報運用演習」を2月に行った。この演習は特別講師の講義と指導によって行われた。まず、取材や映像化に関する理論、続いて写真の取り方、見せ方やビデオ編集ソフトを用いたシナリオづくりの手法を学んだ。その後1泊2日で鳥羽市内と答志島を回り、3~4人のグループで“海女文化”や地域の魅力取材するとともに、隠れた資源の発掘を学生目線で行った。そして、取材した素材をもとに2分程度の映像作品を完成。2016年度以降は、このような演習の教材開発を進めるとともに、カリキュラムへの本格的な導入を目指していく。



第1回地域連携フォーラムの開催

2月6日(土)、四日市大学にて「わかもの学会」に続く「大人学会」として第1回地域連携フォーラムが開催された。これは、公募により地域の市民活動団体、企業、大学関係者の皆様にその活動の様子を発表していただくもので、当日は160名を超える方に参加していただいた。午前中は「つながる力で地域をひらく」をテーマに、基調講演とパネルディスカッションを開催。基調講演の講師として、「高校生レストラン」を実現に導いた元多気町職員の岸川政之氏をお招きした。「高校生レストラン」の開設に関するお話や、町おこしに大切なことは「地域にあるものに惚れる」こと、など、地域連携の本質に触れるお話であった。続くパネルディスカッションは、岩崎恭典副学長がコーディネーターを務め、岸川氏、舘英次氏(四日市市政政策推進部部長)、福永和伸氏(三重県戦略企画部ひとづくり政策総括監)の3名のパネリストよりご意見を頂いた。午後はテーマに分かれて分科会が行われ、研究・活動について、本学COC事業の重要な柱を成す「産業振興」「環境」「人づくり」「地域福祉」「地域文化」の5つを今回のテーマとし、発表が行われた。「人づくり」の分科会では「地域の方々の教育は、誰が行うべきか」「学校などの営業活動に携われない団体は金銭を扱う規制が多く、活動が制限されがち」といった、人材育成を行う上での現場の課題が浮き彫りとなった。限られた時間内であったが、どのグループも活発な意見交換が行われた。今回のフォーラムは、地域活動を行う方の発表の場を提供する意味もあり、また、地域と大学との「つながり」、地域同士での「つながり」の重要性を再認識すると共に、それをどのように発展させるのか考える機会となった。



「伊勢湾流域圏の再生シンポジウム」で千葉教授が発表

1月31日(日)、じばさん三重にて「伊勢湾流域圏の再生シンポジウム」が開催され、伊勢湾の環境問題に関心のある愛知、岐阜、三重の方々を中心に約130名が会場に集まった。まず、元三重大学教授の高山進先生から基調報告があり、続いて海の博物館の石原義剛館長から伊勢湾の環境の歴史と現状についての話があった。その後、パネルディスカッションに移り、本学の千葉賢教授(環境情報学部)、四日市ウミガメ保存会の森一知代表、岐阜大学の向井貴彦准教授から発表があり、続いて会場との質疑応答が行われた。このシンポジウムは長良川河口堰を運用開始してから20周年を記念して行われた関係もあり、会場には環境問題に取り組んできた市民が多く参加した。会場は熱気に包まれ、質疑の内容は深く、長良川河口堰と伊勢湾の環境の関係や、伊勢湾のあさり減少の問題など、専門的なものも含まれた。



ドローンの研究活動が朝日新聞で紹介

2月11日(祝)に環境情報学部1期生の渡辺一先生と渡辺創氏が大学を訪れ、ドローンで撮影を行った。渡辺一先生は地理情報学の研究者で、現在はドローンの活用に力を注いでおり、渡辺創氏は映像制作のプロフェッショナルである。彼らは四季折々の空撮を行い、四日市大学のキャンパスの美しさを伝える映像作品の完成を目指している。

作品は、2016年の10月に開催される大学祭で発表を予定しており、晩秋(昨年11月19日に第1回の撮影済み)と冬(今回)の撮影を済ませた。体育館上空から校舎前までのコースや桜並木上空の位置情報を記録し、同じコースに沿って何回も飛ばして撮影した。彼らの頭には作品の構成がすでに出来上がっているようで、計画したコースに沿って撮影を行った。次回の撮影は桜の時期に行われる予定だ。

なお、1月9日(土)に実施した、ドローンによるいなべ市北部集落の空撮は、1月19日(火)付の朝日新聞の夕刊(東海イブニング)の社会面に取り上げられ、朝日新聞デジタルにも掲載された。



第5回「ごみと水を考える集い」で記念講演

1月24日(日)、清須市の庄内川水防センターで第5回「藤前干潟・伊勢・三河湾のごみと水を考える集い」が開催され、山、川、里、海の環境保全活動に取り組む市民団体・行政などの35団体70人が参加した。藤前干潟クリーン大作戦委員会の坂野一博実行委員長の挨拶に続き、河村たかし名古屋市長より来賓挨拶があり、藤前干潟が守られた経緯を振り返るとともに、名古屋には誇れる歴史文化資源のあることを説明された。

その後、四日市大学の千葉賢教授(環境情報学部)が「伊勢湾の漂流漂着ゴミの研究」と題する記念講演を40分間行い、漂流漂着ゴミ問題に関して、これまでの調査で判明していることや、未解明なことを整理するとともに、コンピュータによるシミュレーション結果などを紹介した。続いて基調報告、特別報告が行われ、その後は参加者全員が3つのグループに分かれ、分散会を行い、相互交流・意見交換を行った。

分散会では、ゴミをポイ捨てしてしまう環境意識の低い人たちに、どのようにしてゴミ問題を伝えてゆくと良いのかという点を中心に議論が交わされ、このようなワークショップの重要性や、小学校教育などでゴミ問題を扱うことの必要性を求める声が出された。最後に第5回「ごみと水を考える集い」の声明文を皆で採択し、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会の森一知事務局長から閉会の挨拶があり、シン鍋とおにぎりが振る舞われ会は終了した。



下水処理施設を見学

1月20日(水)に、四日市大学の武本ゼミ(環境情報学部)と大八木ゼミ(環境情報学部)の8名が、四日市市新正にある日永浄化センター(市の下水処理場)の見学を行った。下水処理施設を直接見て、日頃からゼミで学んでいる汚水処理技術の理解を深めることをねらいとした。

当日、近鉄新正駅に集合し、車で5分あまりで浄化センターに向かった。市内の下水量の50%がここで浄化されていること、各種処理内容の概要、汚水処理方法などについて、資料やスライドによる説明を受け、さらに顕微鏡画像を映し出す装置を用いて微生物が汚水を浄化する様子を眺めた。その後、雨の中で場内を一周し、最初沈殿池、反応槽、最終沈殿池、汚泥脱水機、浄化装置、天白川への放水状況などを見学した。多くの学生にとって初めて見る施設であり、日頃からの環境学習の助けとなった。

